

児童生徒の「わかる」「できる」をささえるユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援

保存版
No.2

すべての児童生徒が安心して学習に参加できるように

児童生徒の力を最大限に伸ばすために

児童生徒が学ぶ喜びを感じ主体的に学ぶ授業をめざして



ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援とは・・・

すべての児童生徒が「わかる」「できる」ことをめざして工夫された指導・支援です。個別の指導・支援が必要な児童生徒には「ないと困る(なくてはならない)指導・支援」です。

No.1を見てね

教室環境の工夫
(物的環境の工夫)

接し方の工夫
(人的環境の工夫)

授業づくりの工夫

児童生徒にとって「わかる」「できる」授業づくりを工夫し、学びに向かう意欲や態度の育成を目指す

ポイント

学級に在籍している児童生徒の実態に応じて、必要となる配慮や指導上の工夫はいろいろあります。児童生徒の姿から必要となる配慮や工夫を考えましょう!



児童生徒一人一人には、それぞれに得意な学び方があります。また、周りの環境によっては、学習や活動への集中や人との関わり等に難しさがある児童生徒もいます。学習上・生活上の困難さを補うという視点だけでなく、得意なことを生かした指導・支援の工夫を取り入れた授業づくりを目指していくことで、児童生徒一人一人の学びの充実につなげていくことが大切です。

「個々の特性に応じた指導・支援」を踏まえ、「みんながわかりやすい授業づくり」からスタートしていくことで、すべての児童生徒が自分の力を発揮し、お互いに学び合い、主体的に学ぶことができる授業づくりを工夫していきましょう。



児童生徒の興味・関心を引き出し、学びたいという気持ちにつながる学習者主体の授業づくりを目指していきましょう。

本リーフレットが先生方の授業づくりの一助となり、すべての児童生徒のよりよい学びにつながることを願っています。

令和8年3月
鳥取県教育委員会

Q&A ① みんなにわかりやすい授業をすることは、学習の目標と内容を下げることになるのでは?

ユニバーサルデザインの視点を生かして授業をわかりやすくすることの目的は、授業のねらいや内容を伝わりやすくし、本来児童生徒が持っている力を最大限に生かし、可能性を引き出すことです。

例えば、学習の見通しが持てるように工夫することで児童生徒が安心して取り組めるようにしたり、ICT機器等を指導者も児童生徒も活用し思考の過程を見える化したりすることで、主体的に、より学習の目的に迫る学びにつながり、学習内容をより深く理解できると考えます。

取り入れる配慮や工夫については形式的に行うのではなく、どのような場面でどのような効果が期待できるのかを考え、児童生徒の姿をよく見ながら取り入れていくことが大切です。

Q&A ② ユニバーサルデザインの考え方を取り入れると、合理的配慮は必要ないのでは?

ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援を学級全体への指導・支援(一次支援)として実施しても、それだけでは個々の教育的ニーズに十分に対応しきれないケースもあります。

ユニバーサルデザインの視点を生かした指導・支援と個に応じた指導・支援を両輪で考え、個々の教育的ニーズに応じて個別に特別な配慮を行うことで、すべての児童生徒が学習に参加し、取り組めるようにするという視点が大切です。



児童生徒一人一人の学びの充実のために

全員の主体的な参加を目指し、学びの意欲を引き出し、学習内容が理解できる授業づくりを模索し続けることが大切です。

- ◆児童生徒の「強み」に気づき、「違い」を認め合い、共に学び合える学級づくりをする
- ◆全員が参加できる授業づくりを工夫する
- ◆学びの意欲を高めるために一人一人の興味・関心や好きなこと等を見つけ、単元や題材の取り上げ方を工夫する
- ◆児童生徒の教育的ニーズを把握し、学級全体への指導・支援としてできることを考える
- ◆学習内容が理解できるよう適切な指導及び必要な支援を行う

欠かせないのは、児童生徒の強みと可能性をさぐる視点をもち続けること



鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課 〒680-8570 鳥取市東町一丁目271 TEL:0857-26-7598

リーフレットNo.1
(掲示用)



<https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1347061/keijiyous.s.pdf>

No.2はこちらからダウンロードできます!

各種リーフレット
手引等URL



<https://www.pref.tottori.lg.jp/123222.htm>

特別支援教育課
ホームページ



<https://www.pref.tottori.lg.jp/tokubetushien/>

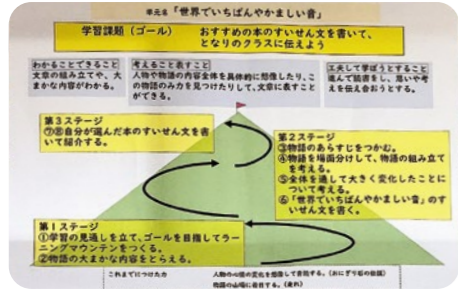


他の工夫や資料はこちら

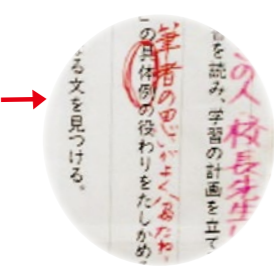
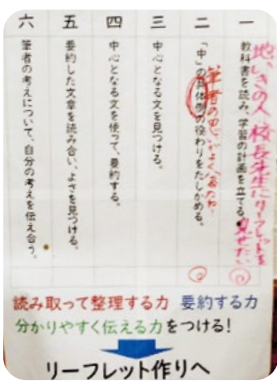
すべての児童生徒が「わかる」「できる」ことをめざして工夫された指導・支援です。個別的な指導・支援が必要な児童生徒には「ないと困る(なくてはならない)指導・支援」です。

● 学びの見通しの共有

学習内容の全体像(単元全体のイメージ)や本時の学習の位置付け、既習事項との関連付け等を児童生徒と共有したり、魅力的なゴールを児童生徒とともに設定したりして、主体的に取り組めるようにする



文字だけでなく図で示すことで、単元全体のイメージをわかりやすく伝える工夫



前時の評価等を随時書き入れていくことで、児童生徒と学びを共有し、次へ学びをつなぎ、意欲を高める工夫

● ねらいの明確化・ねらいに正対した評価の工夫

ねらいを明確にし、児童生徒と共有することで目的意識を高め、達成度がわかるように整合性のある評価を工夫する

5時間目 【単元のゴールとなる課題】

なぜ身分制のあった江戸時代の文化や学問は、町人が中心になったのだろう。」について、仮説を立てて話し合う。

「何を学習するのか」「何について考えるのか」を焦点化することでわかりやすくする工夫

たて6cm、横8cmの長方形の布を並べて正方形を作ります。一辺が何cmの正方形が作れますか?

たてと横の長さの関係調べて正方形になるときの見つけ方を考えよう。

問題を解くにあたって、考える視点を提示し、ねらいに迫る工夫

A	B	C
現象の説明を「原子モデル」を活用し、習った「理科用語」を使いながら「化学式や化学反応式」も入れて、説明している。	現象の説明を「原子モデル」を活用し、習った「理科用語」を使いながら説明している。	原子モデルを使って図を描いていない。起きた現象を書いているだけである。(何も書いてない)

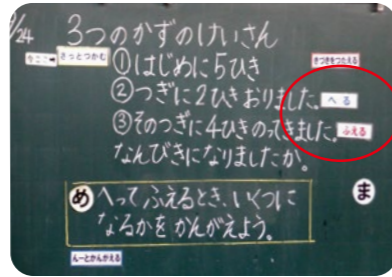
ねらいと整合性のある評価の観点をわかりやすく事前に示し、自分の学びの過程を振り返ることができるようにする工夫(ルーブリックの活用)

本日のミッション
二酸化炭素の中でマグネシウムが燃焼するのはなぜ

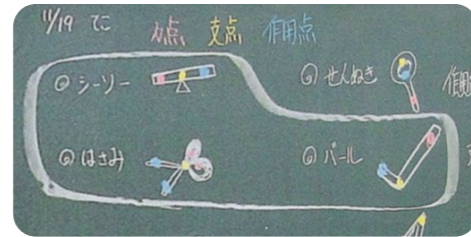
①個人思考
②班考察
③班交流
④確認テスト

● 情報伝達の工夫

考えるために必要となる情報をわかりやすく伝えることで、学習への参加度や理解度を高め、課題解決に向けて取り組めるようにする



文章問題の意味理解を促し、演算方法を選択できるように、わかりやすく伝える工夫



考えるために必要な情報が見たらわかる板書の工夫(内容の精選、色使い等)

動きのある活動を取り入れたり、見る、聞く、話す、書く、行動する等を組み合わせて感覚を活用したりすることで、児童生徒の多様な学び方に対応する工夫

ね(清音) つ(促音) こ(清音)

法 音のつくり方

● 教材・教具の工夫

参加しやすく、理解しやすいように、また、継続して活動に取り組めるように、教材・教具を準備する

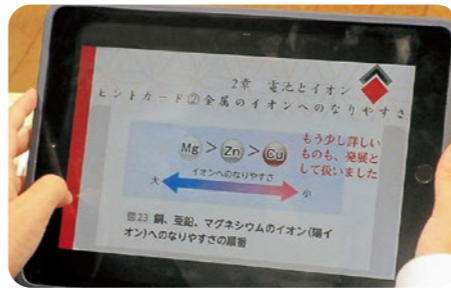
各プリントの裏面に「各プリントの裏面にHintカード」や「会話や作文で使える語句」を記載しておくことで、ワークシートの裏面に解説やヒントを記載しておくことで、自らが活用して考えられるようにする工夫(中学校・英語)

※誰でもいつでも見たいところだけ見ることができる
※表、裏どちらにも作文を書いてよし

詳細はドライブに掲載



鍵盤の音階のヒントカード(取り外し可能)を使うことで、演奏に取り組みやすくする工夫



データでヒントカードを準備しておくことで、既習事項を活用し、自分で解決に向かえるようにする工夫

● 思考の活性化の工夫

学習のねらいに合わせて、思考を整理したり深めたりできるように、使用するツールや表現方法を選択できるようにする



ノート、ふせん、タブレット等、使用する文房具は自分の学び方に合わせて活用し、思考を深める工夫



※筆算の計算場面



班ごとに具体的操作をしながら、自分の考えを相手に伝えたり、他者の考えを理解したりしやすくなるための教材の工夫

(中学校・理科 燃焼) C(炭素)、O(酸素)と書かれているマグネットを準備

● 話し合い活動の工夫

話し合う目的や方法を見える化し、一人一人が安心して自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりして、学びを深められるようにする

ペア・グループタイム

確認: めあめや学からすることを言葉にして確認し合う

アイデア: 協力して、とにかく多くの考えを出す

教え合い: 教え合いをする全員ができるようにする

共有: 自分の考えたことを伝える相手の考えたことを聞く

集約: 考えを整理し1つにまとめる 決定した理由を説明できるようにする

探究: 難しい問題を考え合う様々な考えをもとに自分の考えをもつ



話し合いの柱を示すとともに、出し合う ⇒ 比べ合う ⇒ 決定する 等の段階を示し、目的を明確にする工夫(特別活動)

● 意思決定や意思表示をしやすくする工夫

児童生徒が安心して意思表示できるよう、話しやすい学級の雰囲気づくりをするとともに、考える時間の確保や口頭でのやりとり以外の手段を準備する

(工夫例)
・机間指導 ・共有ノートやチャット機能 ・指のサインで合図
・裏表が赤青のカードで「わかった」「困っている」の意思を伝えるカード等を活用



指導者からの声かけ以外に、自分から考えや意思を発信できる方法を提示しておくことで、児童生徒の安心につながる工夫

● 学習形態や展開の工夫

個別・小集団・学級全体といった学習形態を柔軟に導入し、児童生徒の学習参加の基盤を支え、学びが深まるようにする

(工夫例)
・教科の特性に応じて、一定の流れで活動を進めることで、児童生徒の学びを活性化させたり、安心感につなげたりする
・ペアやグループによる活動や、身体を使う活動等を通して、言語化したり表現したりして理解を深める
・導入にゲーム的な活動を取り入れたり、展開を個別から小集団活動に進めたりする等、リズムやテンポを工夫する

学びをつくる	自分が選ぶ			
学び方	学びの場所	表し方		
1人で	教科書で	自分の机で	ノートにかく	式を立てる
2人で(ペア)	ヒントカードで	机をあわせて	タブレットに入力	言葉で話す
班で	動画で	図書館で	表をかく	きまりを見つけ
みんなで	算数コーナー	モニターの前に	回をかく	説明をかく
分からない友達に	先生に	学びのスペース	グラフをかく	

学び方や学ぶ場所、表現方法等の選択肢を児童生徒と共有し、授業のねらいに応じて自己選択・自己決定し、学びを深める工夫

